WORLD NEWS FLASH 04

TECHART GrandGT Exclusive Carbon Kits

カーボンをまとったトレンドリーダー 静かな主張。

昨年登場し、チューニング界で大きな話題を呼んだ、パナメーラ用のワイドボディキット「GrandGT」。テックアートが手がけるこのモデルがさらに進化を遂げ、「エクスクルーシブ・カーボン・キット」の名を冠した。リアルカーボンの独特な凄みが注目のプロダクトだ。

TEXT■山崎元裕(Motohiro Yamasaki)

「コイツこそが究極の完成形なのか。それともまだこの先に、我々を興奮させる新たなプランがあるのか。ポルシェチューナーのテックアートが続々とリリースするパナメーラターボ・ベースの「プランドGT」は、常にポルシェ・ファンの話題を独占し続ける存在である。

テックアートというチューナーに関しては、本誌の読者にはもはや詳しい解説は不要だろう。彼らが今、ポルシェ・チューニングの世界においてトップ・ブランドの座に君臨していることは、誰もが一様にそれを認めるところ。まさにテクニックとアートを高い次元で融合させたその独特なチューニングには、すでに世界中で高い評価が下されている。

そのテックアートがパナメーラという素材に初めて挑んだのは昨年のジュネーブ・ショーでのこと。ここで初披露された「コンセプト・ワン」は、過激な迫力のオーバーフェンダーを採用したテックアートの新たなデザイン・トレンドを主張したモデルだった。ジュネーブでのレスポンスはテックアートにとっておおむね好意的であったようだが、結果的に彼らはそれをそのままプロダクション化することはなく、新たにグランドGTと呼ばれるニューモデルをリリースしてきた。

スイスのチューリッヒで初公開され、その後エッセン・モーターショーで再度のアンヴェールを行うことになったグランドGTは、コンセプト・ワンと比較するとよりスムーズな造形となったフェンダーが印象的な一台だった。

そのグランドGTが「エクスクルーシブ・カーボン・キット」とネーミングされ、さらなる進化を遂げることになったのである。新たなエクステリア&インテリア・パッケージを用意して、昨年12月半ばのクリスマス休暇を前にテックアートがリリースした新たなグランドGTは、まさにポルシェ・ファンには羨望のクリスマスプレゼントといった印象を抱かせる。エクステリアデザインは前作からわずかなモディファイが施されたにすぎないが、カーボンの素材感がそのままスタイルに活かされたことで、独特な凄みに包まれることになった。

テックアートによるディテールのデザインは実に巧みだ。フロントマスクはセンターと左右のエアインテークでまず個性を主張。ボトムセンターのスプリッターや、LEDによるポジショニングランプなども滅和感なくフィットされている。ラインの美しさに注目されるのは、やはりエアインテークの左右を上手に流れる流麗でかつ鋭いカットラインだろう。前後のフェンダーは左右各々21mmがワイド化されているというが、特にフロントフェンダーからドアパネルにかけてのプレスラインの美しさには、デザインとしての妙のほかに、カーボン素材の成形技術の高さというものを感じる。

「エクスクルーシブ・カーボン・キット」の内容は、もちろんまだまだ続く。エンジンフードやヘッドライト&テールライト・トリム、サイドスカート、ルーフスポイラー、リヤバンパースポイラー&ディフューザー、そして様々なエアダクトなどはこのパッケージを構成する重要なパーツ。ホイールは21インチ、もしくは22インチの鍛造が可能となり、これにはコンチネンタルのニュープロダクトとなる「コンチ・フォースコンタクト」が組み合わされる。ちなみにテックアートはBMWチューナーのACシュニッツァーなどとともに、コンチネンタルの新製品開発においてのパートナーとしての役割も果たしている。メーカーとチューナーの友好的な関係は、クイヤもまた同様なのである。

エクステリアに呼応して、インテリアにもブラック&カーボンをコンセプトとしたモディファイが施されている。ダッシュボードと前後ドアのトリム、そしてキャビンのセンターを前後に貫くコンソールは、いずれもカーボンを用いて独自に成型されたもの。シートにはスポーティなステッチも採用されているが、これらのカラーリングや仕様はいずれもカスタマーが自由にチョイスすることができる。フルオーダーメイドのインテリア・コーディネイトは、これもまたテックアート伝統のプログラムである。

フロントの4・8ℓV型8気筒ツインターボエンジンは、ノーマルの500PSから580PSに強化されている。もちろんテックアートからは、これからもさらに豪快なエンジンが登場する可能性は濃厚。ライバルの動向を見れば、彼らがここでパナメーラの進化を終えるとは到底考えられないからだ。世界中のファンは、これからも悩み続けるだろう。テックアートのパナメーラをオーダーするのは、はたしていつがベストなタイミングであるのかに。

パナメーラ独特のデザインをもつセンターコンソールをはじめ、ダッシュボード、ドアパネル、エントリーガードなど、あらゆるところにカーボンが用いられたインテリア。いずれも独自に成型されたオリジナル品である。

素材、色などあらゆるぼみをフルオーダーできるテックアート伝統のインテリアカスタムプログラムを用意。エンターテインメントシステムやオリジナルの油圧駆動センターコンソールなどもオプションで装着されている。